

令和4・5年度 栃木県PTA連合会委嘱

# 研究P T A 研究紀要

研究主題

家庭・学校・地域との連携を図ったP T A活動

～逆川よさを生かした活動を通し、

P T Aの連携をさらに深め、子供たちを育もう～



茂木町立逆川小学校 P T A

## 研究PTA研究紀要目次

### あいさつ

栃木県PTA連合会会長	2
茂木町立逆川小学校PTA会長	3

I 地域・学校・PTAの概要	4
1 地域の概要	4
2 PTAの概要	4
3 学校の概要と変遷	4

II 研究の概要	6
1 研究主題	
2 研究主題設定の理由	6
3 研究方針	6
4 研究内容	6
5 研究計画	7
6 研究の経過	7

III 研究の実際	9
1 学校と地域を結ぶ活動	9
2 親と子を結ぶ活動	13
3 親と親を結ぶ活動	16

IV 研究の成果と今後の課題	18
1 研究の成果	18
2 今後の課題	18

V 資料編	19
-------	----

あとなぎ	36
------	----

## 研究PTA活動のお礼

栃木県PTA連合会 会長 揚石 哲司

茂木町立逆川小学校PTAの皆様におかれましては、このたびの研究PTA活動へのご理解、そしてご協力を頂き、また、研究成果の紀要発行に際しまして厚くお礼申し上げます。

2年前、新型ウイルス真っ只中で委嘱をさせて頂きましたが、異常事態中での活動には多くの不安があったことと思います。

昨年、長いトンネルから抜け出し、子供たちやご家族に笑顔が戻ってきたことを実感してはいますが、その反面で急激に世の中が動き始め、様々な事業が行われるようになってきました。多くの方が大変忙しくなり、戸惑っていることも事実です。

また、昨今発生する大規模自然災害では、地域の連携があらためて見直され、PTAがその一翼を担っていると言っても過言ではありません。

しかしながら、今世の中ではPTAの在り方そのものが注目されているように思えます。様々な意見や議論が取り交わされる中、貴PTAにおかれましては学校、地域が一丸となりこれまでの常識にとらわれず、未来を見据えて活動を継続して下さいました。

今PTAは、組織運営、家庭教育、地域連携、情報モラルなど様々な課題を抱えています。これらを自分事として考え、本来の目的は何なのか、そして活動はどうあるべきなのか、今一度考えて行くことが必要であること、その答えを、逆川小学校が導き出して下さっているように感じています。これは、栃木県PTA連合会がスローガンに掲げております「全ての人が笑顔になるPTA」に通じるものがあると感じています。

ここにたどり着くまでの全ての会員の皆様、地域の皆様の地道な活動や努力、発想の転換、「何とかしていこう / 良くしていこう !」という心意気にあらためて敬意を表したいと思います。

今後、今回の研究活動が、貴PTAのみならず、茂木町の素敵な未来への懸け橋となること、そしてこの輪が栃木県内全体に広がることを願っています。

最後になりますが、2年間にわたる研究を支えて下さいました学校関係の皆様、栃木県教育委員会様、並びに茂木町教育委員会様をはじめ関係各位に、心より感謝申し上げます。本当に有り難うございました。

## あいさつ

茂木町立逆川小学校 PTA 会長 中西 裕

令和4・5年度の研究 PTA の委嘱を受けたのは、まだ新型コロナウイルス感染症の定期的な流行が起こっていた令和4年5月のことでした。「PTA 活動の資質向上」、「PTA 活動の充実」の為の研究と言われると、単純に PTA 活動を増やす事になると考えてしまいますが、当時の情勢や本校の児童数の少なさからは困難であり、研究計画の立案に当たっては苦心しました。「PTA 会員の負担にならない範囲」という事を肝に銘じ、計画の立案を行ない、初年度は、今ある学校行事や PTA 活動の良い面を見せるという考えで、計画立案をしました。その計画に沿って実施しようとするも、新型コロナの流行により、中止になってしまい、令和4年度は結果の出せない苦しい年となりました。

しかし収穫もありました。6年生の卒業記念行事で逆川の象徴である「焼森山」への登山を児童達が熱望した事、実施段階で逆川の観光名所「ミツマタ群生地」で保全協議会の方々とながかりを持たした事です。

迎えた令和5年度は、大きな転機を迎えます。それは新型コロナウイルス感染症の5類移行です。学校行事やPTA活動も、コロナ前に戻る年となったのです。そこで、研究PTAの計画も見直しをしました。見直しに当たっては「ミツマタ」と「焼森山」をヒントに「逆川の魅力を知ってもらおう」という方針で、「逆川」の見所を知り、体験する事で、コンビニやスーパーが遠くて不便な地域ではなく、大自然と史跡に恵まれた素晴らしい地域であると再認識してもらい、願わくは自分達の住む「逆川」の事をもっと好きになってもらえればと考えました。結果として PTA 活動の回数は増えてしまいましたが、もともと逆川小学校の保護者は非常に協調性があり協力的なので、敬遠される不安はありませんでした。

活動を終えてわかった事です、PTA 会員へのアンケートで「逆川」の事をもっと知りたいが機会がないというご意見が多く、逆に地域の方々には若い世代に「逆川」の自然や史跡をもっと知ってほしいと思っていた事がわかり、まさに相互の思いをつなげる活動になったと自負しております。

また、昨今のバス通学や子供達が外で遊ばなくなった影響で、地域のお年寄り達が児童達の顔を知らないという事実がわかり、児童達の安全という観点で必要不可欠な地域全体で子供達を見守るというところが成立していない事もわかりました。今後も地域の方々との接点をもつ必要性を再認識しました。

結びに、このような機会をいただきました栃木県 PTA 連合会関係の皆様、活動にご協力いただいた「逆川」地区の皆様、本校の先生方、保護者の皆様に御礼申し上げますとともに、ますますのご多幸、ご健勝をお祈り申し上げ、挨拶といたします。

# I 地域・学校・PTAの概要



# I 地域・学校・PTAの概要

## 1 地域の概要

茂木町逆川地区は、茂木町南部に位置し、中央を逆川が流れ、逆川とその支流に沿って集落が形成されている。地区内には朝日堂、夕日堂をはじめ、多くの文化財、史跡等が残されている。

大正から昭和にかけて、時の村長の指導のもとに焼森山(やけもりやま)に植林が行われ、スギ・ヒノキ合わせて約65万本、154haにも及ぶ立派な公有林をつくり上げた。当時の村内の全戸がこの事業に協力し、豊かな村づくりを行ったことにより、昭和初期には「栃木県きっての模範村」として、天皇の賞詞を賜り、侍従の来村という名誉を受けた歴史がある。旧逆川村役場前に建てられた「恵澤洽著(けいたくごうちょ)の碑」には、この偉業をたたえ子々孫々までこの精神を忘れてはならないという内容のことばが刻まれている。

近年、過疎化、耕作放棄地の増加等の課題がみられるが、逆川協議会による「いい里さかがわ館」の運営、ミツマタ保全協議会によるミツマタ群生地整備等、地域活動は活発で人々は協力的である。

## 2 PTAの概要

令和5年度は、PTA会員は64名(保護者48名、教職員16名)であり、組織は執行部 会長1名、副会長3名、幹事5名、監事2名と、学年部会、専門部(総務、広報、保健体育の各部)、交通安全保護者の会、地区代表委員会で構成されている。

主な活動は以下のとおりである。

- 執行部 . . . PTA活動の運営
- 学年部会 . . . 該当事項(保護者会等)についての審議
- 総務部 . . . 教育講演会の運営、親子労力奉仕の開催
- 広報部 . . . PTA広報誌の発行
- 保健体育部 . . . 学校保健給食委員会の開催、秋季大運動会協力
- 交通安全保護者の会 . . . 交通安全教室の協力
- 地区代表委員会 . . . 地区危険箇所等の見回り

## 3 学校の概要と変遷

### (1) 学校の概要

本校は、昭和62年に逆川小学校、小貫小学校、深沢小学校の3校が統合して創立した。平成18年4月には木幡小学校と統合し、現在に至っている。

昭和62年度の統合から数えて、令和5年度は37年目を迎える。

児童数は年々減少しており、創立当初は250名を数えたが、令和5年度の児童数は64名、教職員は19名である。

(2) 学校の変遷

S62. 4. 1	逆川小学校、小貫小学校、深沢小学校の3校統合により創立
63. 1. 30	体育館・ランチルーム竣工、校章校歌制定・校旗の樹立式
H 6. 6. 15	県教委から学校教育（学習指導）優良学校として表彰
10. 12. 15	栃木県花いっぱいコンクール優秀賞受賞
13. 2. 5	栃木県学校緑化コンクール最優秀賞受賞
13. 5. 19	全国学校環境緑化コンクール準特選
18. 4. 10	木幡小学校と統合
19. 2. 3	開校・創立20周年記念式典・記念行事
23. 3. 11	東日本大震災により、校舎の屋根瓦や特別棟など被災
26. 1. 17	全国交通安全国民運動中央大会交通安全優良賞受賞
26. 12. 19	栃木県健康推進学校最優秀校受賞
27. 2. 19	二十一世紀・新しい時代の健康教育推進学校優良校
27. 12. 18	栃木県健康推進学校優秀校受賞
28. 2. 12	栃木県学校関係緑化コンクール優良賞受賞
28. 2. 18	全国健康づくり推進学校優良校
28. 11. 19	30周年記念式典・記念行事
29. 2. 10	栃木県学校関係緑化コンクール優秀賞受賞
30. 2. 9	栃木県学校関係緑化コンクール優秀賞受賞
30. 2. 22	下野教育美術展団体賞受賞（栃木県美術教育振興会会長賞）
31. 2. 22	下野教育美術展団体賞受賞（栃木県議会議長賞）
R 1. 11. 14	よい歯の優良学校コンクール小学校の部
	栃木県教育長賞・栃木県歯科医師会長賞受賞
2. 2. 27	下野教育美術展団体賞受賞（栃木県教育委員会教育長賞）
2. 4. 11	新型コロナウイルス感染症対策として臨時休業
3. 1. 26	タブレット端末児童1人1台配付
3. 10. 20	電子黒板全普通教室設置完了
4. 2. 14	下野教育美術展学校団体賞受賞（栃小教研図画工作部会長賞）
4. 5. 24	電子黒板理科室、体育館設置
5. 2. 24	下野教育美術展学校団体賞受賞（栃木県知事賞）
6. 2. 22	下野教育美術展学校団体賞受賞（栃木県教育長賞）

## II 研究の概要





## II 研究の概要

### 1 研究主題

家庭・学校・地域との連携を図ったPTA活動

～逆川のよさをいかした活動を通し、PTAの連携をさらに深め子供たちを育もう～

### 2 研究主題設定の理由

保護者・地域住民は、学校への関心が高く協力的な地域である。しかし、近年PTA会員の減少に伴い、会員の負担軽減を図るために組織及び活動内容の見直しを図ってきたところ、会員同士の交流の機会が少なくなるとともに、学校とのつながりも希薄になってきている。

そこで、保護者・地域と学校をつなぐパイプ役としてのPTAの存在意義を改めて確認し、PTAが核となって、家庭・地域・学校が連携し、将来の地域を担う子供たちの育成および地域の活性化を図ることができるのではないかと考えた。

### 3 研究方針

PTAや地域の様々な人たちの有機的な交流活動について、以下の三つの視点を軸として充実を図り、本校の児童を育てていく。

- (1) 学校と地域を結ぶ活動
- (2) 親と子を結ぶ活動
- (3) 親と親とを結ぶ活動

### 4 研究内容

以下のPTA参加行事や家庭教育学級の場合において、「学校と地域を結ぶ」観点から活動の充実を図る。

- (1) 学校と地域を結ぶ活動の充実
  - ア ふるさと学習に協力し、児童による活動のまとめを共有する。
  - イ 生活科の学習(町探検)における地域の協力体制(保育園、郵便局、お店等)の整備
  - ウ 農作業の体験活動(じゃがいも、さつまいも植え、こんにやく作り体験)
  - エ どんど焼き等、地域の行事への参加(実施地区における地域コミュニティとの連携)
- (2) 親と子の活動を結ぶ活動の充実
  - ア PTA 奉仕作業(保護者と5,6年生児童の協力にて実施)
  - イ 校庭花壇の花植え(学校のグリーン活動への協力)
  - ウ 地域の危険箇所見回り(長期休業中等に実施)、交通安全教室への協力等
  - エ 読み聞かせボランティア活動の継続(1か月に1回程度の実施)
  - オ 秋季大運動会への協力(親子参加種目、片付け、全体集合写真の撮影等)

- (3) 親と親とを結ぶ活動の充実
  - ア 家庭教育学級との連携による充実
  - イ 逆川小学校育成会の協力体制の維持
  - ウ 各専門部の協力体制の維持

## 5 研究計画

### 【令和4年度】

4月～10月	農園活動への協力（苗植え、収穫など）
毎月1回	読み聞かせ
5月	交通安全教室への協力
6月	生活科(町探検)の記録(郵便局、保育園、お店等)
年間4回	広報部会（以降年4回実施予定）
6月	グリーン活動への協力
6月	授業参観、教育講演会（保護者会全体会にて）
7月～8月	夏休み期間を利用した地域の危険箇所確認
8月	奉仕活動（5・6年生児童、保護者の共同作業）
10月	秋季大運動会への協力
11月	学習発表会への協力
2月	6年生を送る会（演劇鑑賞会予定）

### 【令和5年度】

5月	交通安全教室への協力
6月	生活科(町探検)の記録(郵便局、保育園、お店等)
6月	ミツマタ学習会
年間4回	広報部会（以降年4回実施予定）
6月	グリーン活動への協力
6月	授業参観、教育講演会（保護者会全体会にて）
8月	奉仕活動（5・6年生児童、保護者の共同作業）
10月	秋季大運動会への協力
10月	花壇整備
11月	グリーン活動への協力
11月	学習発表会への協力
11月	ふるさと学習資料の作成協力
2月	6年生を送る会（演劇鑑賞会予定）
3月	ふるさと校外学習への協力

## 6 研究の経過

### (1) 令和4年度の活動経緯

研究PTAの指定を受け、5月の運営委員会でこれからの計画について話し合った。部会ごとに活発な話し合いとなり、活動方針として、「学校と地域を結ぶ活

動」「親と子を結ぶ活動」「親と親とを結ぶ活動」に取り組むこととし、具体的に、家庭教育学級や学年行事を充実させていくこと、学校行事や校外学習へのサポートをしていくこと、家庭・学校・地域との連携を図っていくことなどの意見が出された。

これを受けて、さっそく農園活動、交通安全教室をはじめ、学校行事や校外学習へのサポートなどをPTA会員に呼びかけ、活動に取り組んだ。

しかし、令和4年度は、依然として新型コロナウイルス感染症が度々流行したため、参集することが難しかったこともあり、活動の充実があまり図れなかったことが反省点であった。



## (2) 令和5年度の活動経緯

令和4年度の課題を踏まえ、5月のPTA運営委員会で研究PTAの今後の方向性を話し合う中で、学校側から児童が焼森山、ミツマタへの関心が高まったという情報提供があった。

これは、令和4年度末の令和5年3月に、6年生の強い要望で、卒業記念行事として行った、ふるさと逆川のシンボルである「焼森山」登山によるものである。その際、地区内にあるミツマタ群生地の見学も行ったところ、偶然、保全活動を行っている方からミツマタについての説明をいただく機会が得られ、それが子どもたちの印象に残ったということであった。

この「焼森山」登山自体にはPTAが関わることはなかったが、後日、今後の活動についてアンケートを取ったところ、会員から学校と地域を結ぶ活動の充実を図るために、ミツマタと関わる活動をPTAで進めてはどうかという意見が出され、令和5年度の方向性として加えていくこととした。

こうして、令和4年度の活動に加え、ミツマタ保全会とのつながりを生かし、ミツマタ学習会やミツマタPR看板設置を行った他、ふるさと学習の資料としての「さかがわマップ」の作成、ふるさとめぐりへの支援等により、研究主題である「家庭・学校・地域との連携を図ったPTA活動～逆川のよさをいかした活動を通し、PTAの連携をさらに深め子供たちを育もう～」に迫ることを目指した。

### III 研究の実際



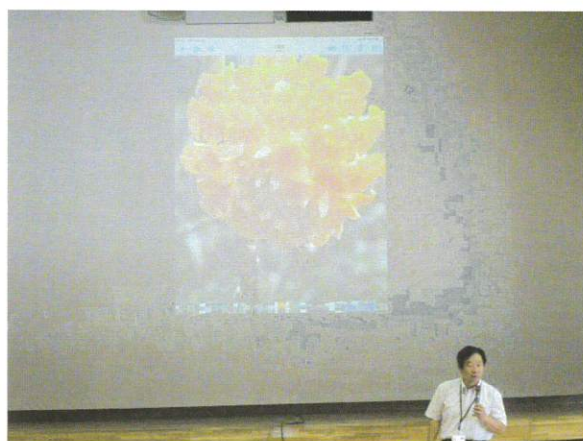
### Ⅲ 研究の実際

#### 1 学校と地域を結ぶ活動

##### (1) ミツマタ学習会

令和4年度末の焼森山登山をきっかけに、ミツマタと関連する活動を取り入れていくこととなり、令和5年6月に児童と保護者対象に学校でミツマタについての学習会を実施することとなった。

ミツマタ保全会のメンバーでミツマタコンシェルジュとして活躍している方に来校いただき、ミツマタとはどのような植物か、ミツマタ群生地はどのように整備してきたかなどの説明と、たくさんのミツマタの写真とミツマタの実物を展示していただいた。



学習会の内容はとても分かりやすく、ミツマタは枝が3つに分かれていること、ミツマタは紙の原料になること等、興味を引くものであった。しかし、平日の開催で、急遽の設定であったこと等により、PTA会員の参加が少なかったことが残念であった。

##### (2) ふるさと逆川についての意識調査

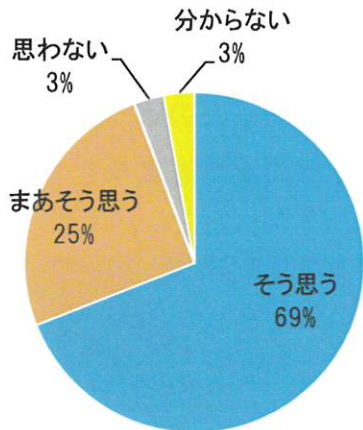
ミツマタ学習会終了後、子どもたちのふるさと学習の充実のためにPTAが協

力していくための意識調査として、6月の授業参観・保護者会時に、「ふるさと学習についてのアンケート」を実施した。以下、結果の一部である。

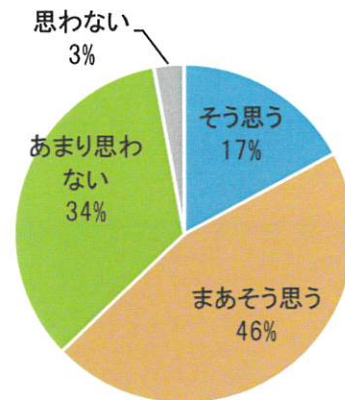
【ふるさと学習についてのアンケート結果】

令和5年6月23日実施 対象：保護者（PTA会員48名中35名回答）

お子様は逆川が好きだと思いますか



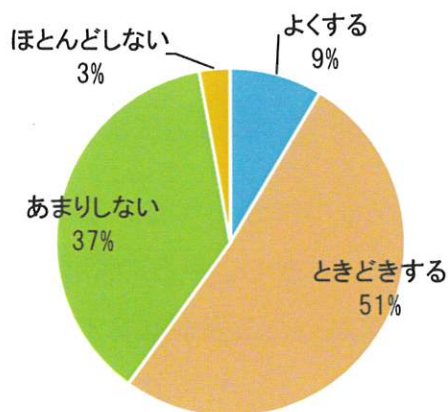
お子様は逆川地区を知っていると思いますか



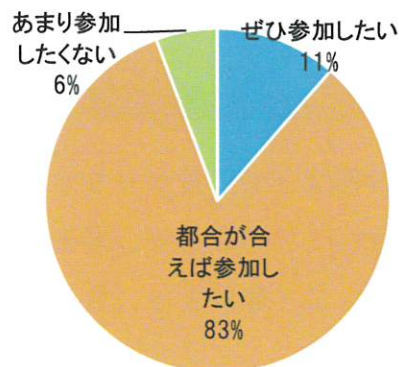
「逆川が好きだと思いますか」という質問に対し、「そう思う」または「まあそう思う」と回答した割合は、94%であり、児童が逆川に愛着を感じていると考えている保護者が多い。家の周りの様子や自然など、「子どもが逆川地区について知っていると

思いますか」という質問に対して、「そう思う」または「まあそう思う」と回答した割合は、63%であり、愛着を感じている割合に比べると、約20ポイント低くなる。「そう思う」という回答も17%であり、高い割合とはいいいにくい。

逆川について家庭で話をしますか



ふるさと逆川の学習にお子様と一緒に参加したいと思いますか



「逆川について、家庭で話をしますか」という質問への回答では、60%が家庭で

話をする（「よくする」または「ときどきする」）と回答している。

「ふるさと逆川の学習にお子様と一緒に参加したいと思いますか」という質問に対して、参加したい（「ぜひ参加したい」または「都合が合えば参加したい」）との回答が94%であった。

この調査から、改めて、PTAが子どもたちと一緒にふるさと逆川について学ぶ機会をつくり、学校と地域を結ぶ役割を担っていく方向で研究を進めていくことを確認した。

### （3）ミツマタPR看板の設置

ミツマタ学習会を通して、児童のミツマタへの関心が高まり、学校では児童会で話し合い、ミツマタをたくさんの人に知ってもらうためのPR看板を制作することとなった。PTAとしても児童の活動の支援にあたることにした。PTAが行う活動としては、看板の材料に下地となる白のペンキ塗り、看板設置時の補助である。



10月の自由参観として設定したグリーンウォークラリーの際に、集まった会員が看板の材料となるベニヤ板等の木材に白ペンキを重ね塗りし、その上に児童が絵を描くようにした。



12月、児童が制作したすばらしい看板ができあがり、焼森山登山の拠点として多くの人が利用する「いい里さかがわ館」に設置することとなった。学校から設置場所までの運搬、設置のための穴をスコップで掘る等の作業を行い、無事看板を設置する

ことができた。当日は、いい里さかがわ館の支配人はじめ、ミツマタ保全協議会のメンバーも集まり、地域の団体とのつながりづくりの機会にもなった。



#### (4) ミツマタ学習会（再）

6月のミツマタ学習会への参加者が少なかったことと、PTAもミツマタについて学習したいという要望が出てきたことから、ほぼすべての会員が集まる11月の学習発表会時に、ミツマタ学習会を再度実施することにした。

当日、講師であるミツマタコンシェルジュの予定が合わず、やむなくビデオ動画による学習会となったが、ほとんどの保護者が視聴でき好評であった。



#### (5) さかがわマップの制作

10月の運営委員会で、研究PTAについての経過と今後の計画についての確認を行った。学校側から、可能であればふるさと学習の充実を図るため、子どもたちの学習に役立つ資料がほしいという提案があった。逆川地区について学ぶ資料を作ってはどうかということで検討を行い、観光案内などで見かけるマップのようなものを作成することで、会員の合意が得られた。マップ担当者として、執行部と広報委員を担当とし、2回程度担当者会議を設けることとした。

担当者会議を開催するにあたり、まず、全PTA会員にマップに取り上げたい箇所についての希望調査を行った。

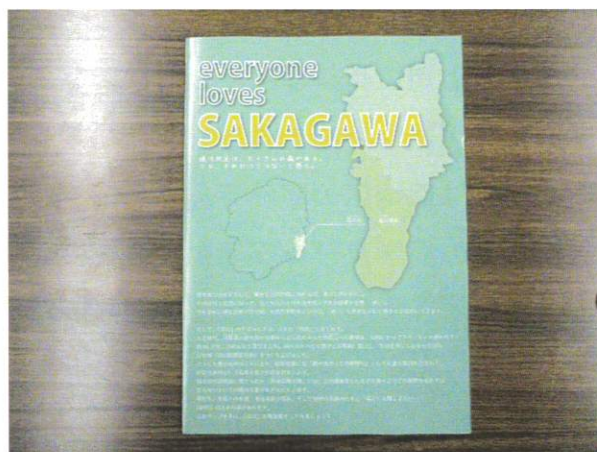
12月に行われた第1回マップ担当者会議では、作成にあたってのスケジュール、役割分担、掲載内容等について検討した。掲載内容については、会員への調査を基に



地区内の文化財、名所、天然記念物等にしぼり、児童はもとよりPTA会員にとっても地域を学ぶ資料となることを目指すことにした。

これに基づいて、PTA会員（広報部長）が中心となって案の作成に取りかかり、町教育委員会にも資料提供等の協力を依頼した。

1月に行われた第2回マップ作成会議では、原案を基に、デザイン・内容等についての確認と修正を行い、数回の校正の後、2月下旬に完成させることができた。作成にあたったメンバーから、マップを通して、逆川について知らなかったことが多く、よい勉強になったという感想が多く聞かれ、より多くの人々にも逆川を知ってもらうため、PTA会員、児童への配付だけでなく、いい里さかがわ館や美土里農園などにもまとめて置かせていただくことにした。



## 2 親と子を結ぶ活動

### (1) 校外学習へのサポート

4月当初の交通安全教室、5月の生活科まちたんけんでは引率の補助として、主に児童の安全面でのサポートを行った。児童と一緒に地域を歩き、保護者として低学年の児童の特性を理解することができた。また、普段は気付かなかった危険箇所を発見することができ、有意義であった。

### (2) 学校緑化活動への支援

逆川小学校は、開校以来、環境緑化活動に力を入れており、平成12年度には栃木県学校環境緑化コンクールで最優秀賞、全国準特選の栄誉に輝いた歴史がある。多くの樹木に囲まれた環境整備にPTAが果たしてきた役割は大きい。

令和5年度は、総務部主催の夏のPTA親子労力奉仕で、樹木の剪定を行った。PTA会員がサツキやドウダンなどの伸びた枝を刈り込んだり、大きくなった樹木の枝をノコギリで切ったりし、児童は片付けなどを手伝い、親子で気持ちのよい汗を流す

姿が見られた。



### (3) ふるさとめぐり

3月上旬の「ふるさとめぐり」では、引率のサポートとして会員が協力した。全学年で花が咲き始めたミツマタ群生地を見学し、その後、学年ブロックに分かれ、1・2年生は飯地区の慶翁寺見学、3・4年生は木幡地区の昭和ふるさと村（旧木幡小学校）での見学及び体験活動、5・6年生は鶏足山・焼森山登山を行った。



特に5・6年生と一緒に登山した会員は、途中の岩場での安全確保のサポート等を行い、全員が楽しく無事に登山～下山するために大いに活躍した。



## 【ふるさとめぐり（焼森山登山）に参加した会員の感想】

3月5日、卒業を控えた6年生ともうすぐ最上級生となる5年生とともに、ミツマタ群生地の見学と逆川地区の象徴でもある焼森山に登ってきました。春の訪れにはやや早い時期でもあり、ミツマタも蕾から花へと移りゆく時で、淡い花をわずかに咲かせているところでした。群生地から焼森山頂に向けて登り、途中険しいところもありましたが、声を掛け合いながら皆無事に登頂しました。山頂から逆川地区一帯が見渡せ、皆で共に過ごした地域を改めて感じた6年生、逆川小学校での良き思い出づくりにPTAとして参加し喜びを感じました。

初心者向けで比較的ハイキングのし易い山とは聞いていたものの、眺めているだけで何十年も過ぎていました。

今回、児童たちの見守り隊というきっかけが、親としても「地元を知る」事ができ、話題増幅にも繋がりました。

普段見ている山ですが、登る機会はなかなかないので、とても楽しみに参加しました。

みんなで励ましの声を掛け合いながら、楽しく登山することができました。子供たちと一緒に見た山頂での景色は、とても思い出に残る体験となりました。

子供たちと一緒に初めて焼森山に登りましたが、日頃の運動不足もあり、ついていくので精一杯でした。頂上で自分の家や学校を楽しそうに探しながらおしゃべりしている子供たちの姿を見て、参加して良かったと思いました。

「ふるさとの魅力」を認識するタイミングは、ふるさとを離れてからかもしれません。だからこそ、今回の焼森山登山を通して、たくさんの体験と記憶が子供たちに残り、ふるさとを誇りに思うきっかけとなれば嬉しいです。

### 3 親と親を結ぶ活動

#### (1) 学校坂花壇整備

学校坂花壇にはかつてチューリップやスイセンなどの草花が植えられていたが、近年はあまり手入れされない状態が続いていた。学校側の花壇を整備したいという要望により、PTA有志が協力し、区画を決めて土おこし、柵の設置を行った。

その後、児童が球根を植え付けし、春にはきれいな花が咲く花壇が出来上がった。



#### (2) 各部の活動

##### 【総務部】

6月の保護者会全体会で教育講演会の運営を行った。

また、夏季休業中の8月下旬に、親子労力奉仕を行った。作業内容は、前庭側溝内の清掃、樹木の伸びた枝の剪定やつる切り等で、暑い中ではあったが、ほぼ全ての会員が参加した。

また、保護者が参加できない場合、祖父母等の家族が代理で協力している姿も見られ、逆川地区特有の「協力」が受けつがれていることを感じた。

## 【広報部】

編集会議を年4回行い、広報紙を2回発行した。主な内容は、児童の活動紹介、各部の活動紹介、研究PTAについて等である。



## 【保健体育部】

6月の保護者会全体会で、学校保健委員会を開催した。内容は逆川小児童の健康の様子について、養護教諭にお話しいただいた。

また、10月の秋季大運動会では、準備・片付け、運営等の協力を行った。



## IV 研究の成果と今後の課題



## IV 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

#### (1) P T A活動の意義の再確認

研究を通して、学校行事や活動へのサポートを呼びかけ、これまで以上に積極的に取り組んできた。こうしたP T A活動の活性化により、安心・安全な教育環境がつけられ、学校教育の充実につながっていくことを実感した。

#### (2) 地域とのつながりの形成・地域の再発見

初年度の反省を経て、P T A・学校とミツマタ群生地保全ボランティアとのつながりを築くことができたことは、研究の大きな収穫であった。また、逆川マップは、子供だけでなく会員にとっても地域の再発見につながる資料になったと思う。これらの取組を通して、改めて逆川地区のすばらしさに気付くことができた。

#### (3) 会員同士の相互理解

執行部を中心に会員同士が顔を合わせて、様々な活動に積極的に取り組むことにより、互いの会話も増え、協力体制が整っていったと思う。

これまで、労力奉仕、運動会の準備や片付けなどでは、逆川のP T Aの協力のすばらしさが発揮されてきたが、今回、会議を通して活動を練り上げていく過程で、皆で力を合わせて何かを作り出す連帯感や会員の相互理解の深まりを感じることができた。

### 2 今後の課題

#### (1) 活動負担の軽減

当初、新たな活動には取り組まないということで研究を受けたが、活動の見直しをする中で、ミツマタ保全会との連携、焼森山登山等への協力を取り入れていくことになった。新たな活動に取り組む際には、それなりに負担が大きかったことは否めない。特に学校のP T A担当には多大な骨折りをさせてしまうことになった。今後、活動を継続するにあたっては、今回の流れをベースとし、負担をかけずに取り組めるよう配慮工夫していくことが必要である。

#### (2) 参加しやすいP T A活動に

P T Aは学校教育の充実と子どもたちを育むにあたり、必要不可欠な組織である。会員の減少、コロナ禍等により、近年、活動の縮小化に目が向きがちであったが、活動を停滞させることなく、より多くの会員が参加しやすいものになるよう組織の見直しを図ったり、活動内容の工夫をしたりしていくことが必要である。

## あ と が き

本校PTAは、栃木県PTA連合会から「研究PTA」の委嘱を受け、令和4年・5年度の2か年間、会員が協力しながら研究に取り組んで参りました。

研究主題を「家庭・学校・地域との連携を図ったPTA活動～逆川のよさを生かした活動を通し、PTAの連携をさらに深め、子供たちを育もう～」とし、学校と地域のつながり、親と子のつながり、親同士のつながりを築くため、様々な活動に取り組んできたことは、有意義であったと思います。

特に、町の新たな観光名所となっているミツマタ群生地 of 保全に関わる皆様とのつながりができたのは、この研究の大きな成果の一つです。ぜひ、今後も学校、PTA、地域が連携して子供たちを育むため、このつながりを大切にしていけることを願っています。

結びになりますが、この研究にあたり、ご支援・ご協力をいただきましたPTA会員の皆様に感謝申し上げますとともに、適切なご助言・ご指導をいただきました先生方に心より感謝申し上げます。

令和4・5年度  
研究PTA研究紀要

茂木町立逆川小学校PTA

〒321-3626

栃木県芳賀郡茂木町飯2210

電話 0285-65-0121

FAX 0285-65-0670

E-Mail sakasyo1@motegi-tcg.ed.jp



